

V シラバス

山口学芸大学大学院教育学研究科子ども教育専攻

<教育学研究科目>

教育原論特論
教育課程特論
教育方法特論
生涯学習・社会教育特論
生涯学習・社会教育特論演習
教育心理学特論
発達心理学特論
発達臨床心理学演習
教育臨床心理学特論
人権教育研究
幼児教育特論
小学校授業実践特論
小学校授業実践特論演習
指導技術特別演習
表現活動指導演習
歌唱表現特別演習
鍵盤表現特別演習
造形表現特別演習
わらべうたの研究
郷土の美術研究

<専門研究科目>

教育特別研究Ⅰ
教育特別研究Ⅱ
教育特別研究Ⅲ
教育特別研究Ⅳ

授業科目名： 教育原論特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数：2単位 区分：講義	担当教員名： 川野哲也
科 目	教職に関する科目（教育の基礎理論に関する科目）		
各科目に含めることが 必要な事項	<ul style="list-style-type: none"> ・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 ・教育に関する社会的・制度的又は経営的事項 		
<p>授業の到達目標及びテーマ：</p> <p>現在の学校教育における制度や実践についての原理やメカニズムを分析するとともに、民主主義、リベラリズム、公共性などのいくつかの思想や概念を吟味することによって、教育を理論的に考察する能力を修得する。</p> <p>到達目標：教育哲学や教育制度の専門的な概念について理解するとともに、現実の教育課題（学校選択、教育の私事化、公共性の弱体化）に対応する教育基盤のあり方を考察できる。</p>			
<p>授業の概要：</p> <p>教育制度や教育実践を理論的に考察した先進的な文献を取り上げ、その解題を中心として講義を進める。特に学校教育制度の一つの基底となっているリベラリズムの思想に着目し、それを批判したりその限界を補ったりするようないくつかの思想を概観する。共同体や公共性といった議論について、その妥当性を吟味する。</p>			
授業計画	<p>第8回：教育改革における選択制 ① 学区、構造特別区域、日本の制度改革</p> <p>第9回：教育改革における選択制 ② 米国チャータースクール、バウチャー制度</p> <p>第10回：公民教育と愛国心 ① シチズンシップと教育</p> <p>第11回：公民教育と愛国心 ② 愛国心の議論</p> <p>第12回：公民教育と愛国心 ③ 日本の公民教育の制度と実践</p> <p>第13回：人間形成における共同体 ① 共同体の概念</p> <p>第14回：人間形成における共同体 ② 学びの共同体、学級共同体</p> <p>第15回：人間形成における共同体 ③ 人間形成過程の吟味</p>		
<p>テキスト：</p> <p>宮寺晃夫著『リベラリズムの教育哲学 多様性と選択』勁草書房、2000年。</p> <p>小玉重夫著『教育改革と公共性 ボウルズ＝ギンタスからハンナ・アレントへ』東京大学出版会、1999年。</p> <p>ハンナ・アレント著、清水速雄訳『人間の条件』ちくま書房、1994年。</p> <p>Mordechai Gordon (Ed.), <i>Hannah Arendt and Education</i>, Boulder CO: Westview Press, 2001</p> <p>佐伯啓思著『日本の愛国心』NTT出版、2008年。</p> <p>岡田敬司著『人間形成にとって共同体とは何か』ミネルヴァ書房、2009年。</p>			
<p>参考書・参考資料等：</p> <p>講義中に適宜紹介する。</p>			
<p>学生に対する評価：</p> <p>レポートにより評価する。</p>			

授業科目名： 教育課程特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数：2単位 区分：講義	担当教員名： 岸 光城
科 目	教職に関する科目（教育課程及び指導法に関する科目）		
各科目に含めることが 必要な事項	・教育課程の意義及び編成の方法		
<p>授業の到達目標及びテーマ：</p> <p>欧米の教育課程論の歴史的展開を考察することによって、教育課程にかかわる諸問題を把握する。</p> <p>到達目標：デューイの理論やブルーナーの理論など専門的な概念について理解するとともに、現実の教育課題（子どもの生活経験の変化、国際化や情報化）に対応する教育基盤（カリキュラム）のあり方を考察できる。</p>			
<p>授業の概要： ヘルバルト派以降の主要な教育課程論を概観し、デューイとブルーナーのカリキュラム論を中心に教育課程諸問題の理解をふかめる。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回： ヘルバルト派の教育課程論－チャーの中心統合法</p> <p>第2回： ヘルバルト派・ラインの教育課程論</p> <p>第3回： デューイの生活経験カリキュラム論</p> <p>第4回： デューイの教材論、知識論</p> <p>第5回： デューイ実験学校のカリキュラムの実際（4～6歳グループ）</p> <p>第6回： デューイ実験学校のカリキュラムの実際（7～8歳グループ）</p> <p>第7回： デューイ実験学校のカリキュラムの実際（9～12歳グループ）</p> <p>第8回： ウッズホール会議と教育内容の現代化</p> <p>第9回： ブルーナー仮説とスパイラルカリキュラム論</p> <p>第10回： 学校の人間化と実践的カリキュラム論</p> <p>第11回： 1960－70年代のアメリカ教育課程の動向</p> <p>第12回： クロス・カリキュラム論</p> <p>第13回： 小学校のクロス・カリキュラムの実際</p> <p>第14回： カリキュラム経営の課題</p> <p>第15回： カリキュラム評価の課題</p>			
<p>テキスト：高浦勝義著『デューイの実験学校カリキュラムの研究』黎明書房、 田中統治・根津朋実編著『カリキュラム評価入門』勁草書房、プリント配布</p>			
<p>参考書・参考資料等：庄司他人男『ヘルバルト主義教授理論の展開』風間書房、 高階玲治編『実践クロスカリキュラム』図書文化社 ほか</p>			
<p>学生に対する評価： レポート評価</p>			

授業科目名： 教育方法特論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数：2単位 区分：講義	担当教員名： 岸 光城
科 目	教職に関する科目（教育課程及び指導法に関する科目）		
各科目に含めることが 必要な事項	・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む）		
<p>授業の到達目標及びテーマ：</p> <p>教育方法の基本的問題と諸概念の理解をふかめる。</p> <p>到達目標：デューイの理論やブルーナーの理論など専門的な概念について理解するとともに、現実の教育課題（子どもの生活経験の変化、学力低下、情報化社会など）に対応する教育基盤のあり方を考察できる。</p> <p>授業の概要： デューイの『民主主義と教育』、『思考の方法』等を主要文献として、「経験」、「思考」、「知識」の教育方法論、ブルーナーの『教育の適切性』等でかれの「構造学習論」の理解をふかめ、こんにちの社会的構成主義学習論の考察へとつないでいく。学生にプレゼンテーションをさせる際にはパソコンなどの情報機器を使用させ、教材の活用方法についても指導する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回： 発達と教育の関係</p> <p>第2回： 学校教育の構造―「教育」と「教授」</p> <p>第3回： ヘルバルトの「教育的教授」</p> <p>第4回： ヘルバルト派の教授理論</p> <p>第5回： デューイの経験学習論</p> <p>第6回： デューイの知識学習論</p> <p>第7回： デューイの探究的思考過程論</p> <p>第8回： 探究過程と情報知の関連</p> <p>第9回： デューイ教育論における教師の指導性</p> <p>第10回： デューイの発問論</p> <p>第11回： 「ブルーナー仮説」の読解</p> <p>第12回： ブルーナーの構造学習論</p> <p>第13回： ブルーナーの学習意欲論</p> <p>第14回： ブルーナーの乳幼児における言語学習論</p> <p>第15回： 社会的構成主義学習論の考察</p>			
<p>テキスト： デューイ著・松野安男訳『民主主義と教育』岩波文庫、 ブルーナー著・鈴木祥三他訳『教育の課程』岩波書店、プリント配布</p>			
<p>参考書・参考資料等： 是常正美著『ヘルバルト研究』牧書店 森 昭著『経験主義の教育原理』金子書房、 平光昭久著『デューイと戦後日本の新教育の理論』中部日本教育文化会、 佐藤 学著『学びの快樂』世織書房 ほか</p>			
<p>学生に対する評価： レポート評価</p>			

授業科目名： 生涯学習・社会教育特論		単位数：2単位 区分：講義	担当教員名：田代直人
科 目			
各科目に含めることが 必要な事項			
<p>授業の到達目標及びテーマ：生涯学習・社会教育に関する高度の専門的事項について理解することができる。</p> <p>到達目標：体験学習や社会教育行政などの専門的な概念について理解するとともに、現実の教育課題（地域と学校との連携、生涯学習社会への移行）に対応する教育基盤のあり方を考察できる。</p> <p>授業の概要：生涯学習・社会教育の専門的事項についての理解を深めるとともに、学校教育と社会教育の連携に関して論じる。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション～授業のねらい、内容、評価方法などについて説明</p> <p>第2回：生涯学習の提唱と日本における発展～国の審議会の答申等の考察</p> <p>第3回：生涯学習のキー（鍵概念）についての考察</p> <p>第4回：生涯学習の基本的なねらいと概念の規定の点検</p> <p>第5回：生涯学習の推進と体験学習の意義・充実～「知識伝達型の教育」から「体験重視の教育」への改革動向に関する考察</p> <p>第6回：生涯学習の観点から見た社会教育の意義と基本的方向に関する考察</p> <p>第7回：少年教育の意義・重要性と課題</p> <p>第8回：青年教育の意義・重要と課題</p> <p>第9回：成人教育の意義・重要性と課題</p> <p>第10回：高齢者教育の意義・重要性と課題</p> <p>第11回：社会教育施設～施設の概念の点検及び公民館・青少年施設の課題</p> <p>第12回：社会教育行政の基本原則と組織体制の課題</p> <p>第13回：学校教育と社会教育の連携～連携を充足する要件に関する理論的考察</p> <p>第14回：学校教育と社会教育の連携～事例的考察（飯塚市の生活体験学校等）</p> <p>第15回：授業の総括</p>			
<p>テキスト：田代直人編『社会教育の理論と実践』樹村房 1994年 田代直人「生涯学習の概念に関する一考察～教育行政の今日的課題」西日本教育行政学会『教育行政学研究』第21号 2000年 田代直人「学社融合に関する一考察（1）－学社融合を充足する要件とは何かをめぐって～」山口大学教育学部研究論叢 第51巻第3部 2001年 その他関係の田代の著書・論文等</p>			
<p>参考書・参考資料等：適宜紹介する。</p>			
<p>学生に対する評価：レポート等により評価する。</p>			

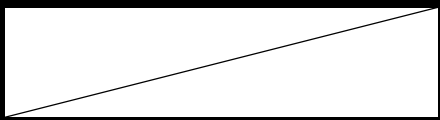

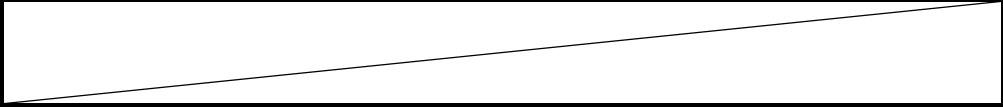
授業科目名： 生涯学習・社会教育特論演習		単位数：2単位	担当教員名：田代直人
科 目		区分：演習	
各科目に含めることが 必要な事項			
授業の到達目標及びテーマ：重要文献の講読を通して、生涯学習・社会教育に関する専門的な事項に関する理解を深めることができる。			
到達目標：生涯教育、人間発達、民主主義などの専門的な概念について理解するとともに、現実の教育課題（生涯学習社会への移行、キャリア教育の充実）に対応する教育基盤のあり方を考察できる。			
授業の概要：①生涯学習の概念に関する考察 ②発達課題に関する考察 ③体験学習に関する考察の観点から、ラングラン著『生涯教育入門』等の重要文献を講読する。			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション～授業のねらい、内容、評価方法等の説明</p> <p>第2回：ラングラン『生涯教育入門』の講読（1）</p> <p>第3回： 同 上 （2）</p> <p>第4回： 同 上 （3）</p> <p>第5回： 同 上 （4）</p> <p>第6回：総括 レポートの提出・発表及び指導</p> <p>第7回：ハヴィガースト『人間の発達課題と教育』の講読（1）</p> <p>第8回： 同 上 （2）</p> <p>第9回： 同 上 （3）</p> <p>第10回： 同 上 （4）</p> <p>第11回：総括 レポートの提出・発表及び指導</p> <p>第12回：デューイ『民主主義と教育』の講読（1）</p> <p>第13回： 同 上 （2）</p> <p>第14回： 同 上 （3）</p> <p>第15回：総括 レポートの提出・発表及び指導</p>			
<p>テキスト：①P.ラングラン著・波多野完治訳『生涯教育入門』全日本社会教育連合会 1990年</p> <p>②R.ハヴィガースト著・荘司雅子監訳『人間の発達課題と教育』玉川大学出版部 1995年</p> <p>③J.デューイ著・金丸弘幸訳『民主主義と教育』玉川大学出版部 1997年（第4刷）</p> <p>なお、①～③の文献は必要に応じて原著を用いる。</p>			
参考書・参考資料等： 適宜紹介する。			
学生に対する評価： 授業時間における発表およびレポート等により評価する			

授業科目名： 教育心理学特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数：2単位 区分：講義	担当教員名：高橋 均
科 目	教職に関する科目（教育の基礎理論に関する科目）		
各科目に含めることが 必要な事項	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。）		
<p>授業の到達目標及びテーマ：教育心理学の理論や研究成果を学び、理解を深めるとともに、その知見を保育・学校教育の現場で活かす方法を、自ら追究できる力を育てる。</p> <p>到達目標：早期教育、クラスの心理的風土、心理教育などの専門的な概念について理解するとともに、現実の教育課題（荒れた学級、学習意欲の低下）に対応する教育基盤のあり方を考察できる。</p>			
<p>授業の概要：荒れた学級・意欲の低下など近年の教育問題や教育心理学の理論・研究成果をふまえ、教育心理学を保育・学校教育の中でいかに活かしていったらよいかを講義する。また、保育・学校教育における教育心理学を活かした授業例・実践例にふれるとともに、学生自らも授業・実践を考案し、議論し深め合う活動を行う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：記憶と学習</p> <p>第3回：教育評価の心理学</p> <p>第4回：早期教育と発達課題・段階</p> <p>第5回：子どもたちの人間関係</p> <p>第6回：教師・保育者と子どもたちの関係</p> <p>第7回：教師・保育者のリーダーシップ</p> <p>第8回：クラス、学級の心理的風土</p> <p>第9回：教育・保育カウンセリングの基礎</p> <p>第10回：教育心理学の研究方法</p> <p>第11回：心理教育（1）アイス・ブレイク</p> <p>第12回：心理教育（2）アサーション</p> <p>第13回：心理教育（3）ライフスキル</p> <p>第14回：特別支援教育の心理学</p> <p>第15回：まとめ</p>			
<p>テキスト：石井眞治・井上弥・沖林洋平・栗原慎二・神山貴弥（編）児童・生徒のための学校環境適応ガイドブック-学校適応の理論と実践- 協同出版（担当教員の高橋均が分担執筆者）。</p>			
<p>参考書・参考資料等：学術誌「保育学研究」「教育心理学研究」掲載の論文を読み、最新の研究を理解する。</p>			
<p>学生に対する評価：課題・レポート70%、授業への取り組みの態度30%</p>			

授業科目名： 発達心理学特論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数：2 単位 区分：講義	担当教員名： 堂野 佐俊
科目	教職に関する科目（教育の基礎理論に関する科目）		
各科目に含めることが 必要な事項	・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。）		
<p>授業の到達目標及びテーマ： 人間の発達・学習に関する原理や要因、発達課題等の理解を深め、各発達段階における諸特徴について、今日的課題へのアプローチの観点に立ち、家庭・学校・地域に密着した立場から考察する。将来、子ども達を対象とした専門的立場での効果的な活用が可能となるような深化が期待される。</p> <p>到達目標： 認知、発達などの専門的な概念について理解するとともに、現実の教育課題（少子化、情報化、都市化における課題）に対応する教育基盤のあり方を考察できる。</p>			
<p>授業の概要： 乳幼児期から青年期、高齢者までに及ぶ発達のメカニズムに関して、認知や学習の発達領域に重点を置き、発達心理学の観点から理解を深める。特に、学部段階で習得した学問的知識に基づき、生理学的基礎論にも立脚した理論的な考察を中心に、現代的課題を取り上げながら論を進める。授業の展開においては、諸外国の文献をも含めつつ、人間の発達のメカニズムについて論理的・科学的に理解を深めるように、積極的な参加が望まれる。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回： 人間の発達の特徴と課題</p> <p>第2回： 現代社会における人間の発達と環境の問題</p> <p>第3回： 発達を促進する要因に関する現代的理解</p> <p>第4回： 今日的発達課題の意義とその内容についての検討</p> <p>第5回： 発達段階に関する認識と現代化への課題</p> <p>第6回： 発達過程における個性化と社会化の意義</p> <p>第7回： 人間発達における初期環境の理解と評価</p> <p>第8回： 乳幼児期の発達と愛着研究の進展</p> <p>第9回： 幼児期の自我発達のメカニズムと自己中心性</p> <p>第10回： 児童期の発達と徒党時代のもたらす意味</p> <p>第11回： 人間の思考の発達と情緒の統制との関係</p> <p>第12回： 青年期への飛翔と現代社会の複雑・多様化</p> <p>第13回： 少子化時代の心理的離乳と脱衛星化の課題</p> <p>第14回： 現代社会における発達障害の理解と実践的課題</p> <p>第15回： 高齢化社会における生活の基盤と自己実現の課題</p>			
<p>テキスト： その都度、最新の「発達心理学研究」（日本発達心理学会）掲載論文の中から指定する</p>			
<p>参考書・参考資料等：「発達心理学＜現代社会と子どもの発達を考える＞」（村井・小山・神土、1999）</p> <p>“The Psychology of Childhood” 1992 Mitchell,P. The Falmer Press</p> <p>「発達理解の心理学」（堂野・堂野、2009）、その他は、その都度、指示する</p>			
<p>学生に対する評価： レポート作成や授業中の発表等の授業への取り組みの態度、等について総合的に評価する。</p>			

授業科目名： 発達臨床心理学演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数：2 単位 区分：演習	担当教員名： 堂野 佐 俊
科 目	教職に関する科目（教育の基礎理論に関する科目）		
各科目に含めることが 必要な事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。） ・ 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項 		
<p>授業の到達目標及びテーマ：現代社会における人間の生活にみられる適応の問題に焦点を当て、子どもから高齢者まで各発達段階ごとに分析して、家庭・学校・地域に密着した立場から考察する。将来、子ども達を対象とした専門的立場での効果的な活用が可能となるような深化が期待される。</p> <p>到達目標：基本的信頼感、欲求不満耐性、自我、などの専門的な概念について理解するとともに、現実の教育課題（孤立化社会、ストレス社会、キレル子ども）に対応する教育基盤のあり方を考察できる。</p>			
<p>授業の概要：複雑多様に激変する現代社会の生活で、ストレスや不安など刺激負荷となりうる諸環境の中で適応に困難を示す人間は多くなってきている。こうした問題に焦点を当て、その原理や要因などについて明らかにし、発達段階ごとに視点を設定して対応や方策について論考する。中でも、家庭・学校・地域など身近な場面で、子どもから高齢者・障害者の視点をも含めた生涯発達の観点に立ち、臨床心理学的な発想を取り入れた人間理解の態度を修得することは重要なポイントになる。授業の展開においては、諸外国の文献なども含め、最新のデータ・資料に基づいて論究する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：発達理解の立場と臨床的観点に関する考察</p> <p>第2回：発達臨床心理学的アプローチの意義</p> <p>第3回：「孤立化社会」と「ストレス社会」の今日的課題</p> <p>第4回：現代社会における発達課題の再検討</p> <p>第5回：乳幼児期の親子関係と子どもの発達に関する研究</p> <p>第6回：初期経験と基本的信頼感に関する研究</p> <p>第7回：養育態度と欲求不満耐性に関する研究</p> <p>第8回：劣等感と自己効力感と適応に関する研究</p> <p>第9回：徒党時代と競争社会と仲間の関係に関する研究</p> <p>第10回：疾風怒濤の時代の適応と思春期の発達に関する研究</p> <p>第11回：「キレル・ムカつく」と対人関係能力の発達課題</p> <p>第12回：自我の形成と思春期の悩みに関する研究</p> <p>第13回：高齢期の適応と心身の変化に関する研究</p> <p>第14回：ストレスと心身への影響に関する研究</p> <p>第15回：ストレス対処とストレス・マネジメントについての検討</p>			
<p>テキスト：特になし、毎回テーマに沿った最新の論文を指示する。</p>			
<p>参考書・参考資料等：「現代社会におけるストレスと適応の生涯発達心理学」（堂野佐俊） 風間書房 1999</p> <p>「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査結果」 文部科学省初等中等教育局 2009</p>			
<p>学生に対する評価：レポートの作成と内容、授業中の発表等の授業への取り組みの態度、等を総合的に評価する。</p>			

授業科目名： 教育臨床心理学特論		単位数：2 単位 区分：講義	担当教員名：田邊 敏明
科 目			
各科目に含めることが 必要な事項			
授業の到達目標及びテーマ： 学校における教育相談活動において、子どもの心の成長を目指し、子どものさまざまな変化に応じた方法について考察する			
授業の概要： 学校における教育相談活動において、子どもの心の成長をめざした、そして子どものさまざまな変化に応じた方法について考察する。授業においては、さまざまな事例を通して子どもの心の多様性に気づき、学校臨床において効果的な心理療法のあり方について検討する。			
<p>授業計画</p> <p>第1回： 青少年の心に寄り添う育て方</p> <p>第2回： 現代の子どもの変化と不登校の理解と対応</p> <p>第3回： 学校教育相談のあり方と教育相談係・スクールカウンセラーの役割</p> <p>第4回： 気になる子への支援と保護者への関わり方</p> <p>第5回： 学校教育相談で用いる心理療法における受容と変化（1）</p> <p>第6回： 学校教育相談で用いる心理療法における受容と変化（2）</p> <p>第7回： 道徳授業でのカウンセリングマインドを生かした弁証法的考察</p> <p>第8回： 学校教育相談活動における弁証法的考察 ー盗癖の事例から</p> <p>第9回： 子育てにおける抱えと逆説的見方</p> <p>第10回： 小学校のスクールカウンセリングの事例</p> <p>第11回： 中学校のスクールカウンセリングの事例と小・中の連携について</p> <p>第12回： 学校で出会う事例の検討 ー不登校</p> <p>第13回： 学校で出会う事例の検討 ー発達障害</p> <p>第14回： 学校で出会う事例の検討 ー非行</p> <p>第15回： 学校で出会う事例の検討 ー総括</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト：</p> <p>教育相談・進路指導の資料集を配布します。</p>			
<p>参考書・参考資料等：</p> <p>その都度必要なプリントを配布します。</p>			
<p>学生に対する評価：</p> <p>課題を授業内で発表させて授業内での討論への参加度とその貢献度を評価します。また、授業の理解度を評価するために、授業終了後に試験を課します。成績は、課題の発表内容と授業への参加度と貢献度を50%、学期末試験を50%として、これらを組み合わせて総合的に評価します。</p>			

授業科目名： 人権教育研究		単位数：2 単位 区分：演習	担当教員名： 香川 智弘
科 目			
各科目に含めることが 必要な事項			
<p>授業の到達目標及びテーマ：人間の尊厳、子どもの基本的人権についての知見を深めるとともに、理想社会であるはずの教育の現場において、教育者が子どもの人権を守るために、いかに子どもたちに向かい合うべきか、具体的な支援方法等の対応力の取得を目指す。</p>			
<p>到達目標：人権、権利、差別などの専門的な概念について理解するとともに、現実の教育課題（いじめ、暴力、虐待多文化社会、など）に対応する教育基盤のあり方を考察できる。</p>			
<p>授業の概要：学校現場における児童によるいじめ、教員による体罰、セクハラ、家庭における虐待そして子どもの自殺など子どもの人権侵害は後を絶たない。これらの具体的事例を裁判事例や近郊の学校等に学生が出向いて収集し、これを持ち帰るなど、学生自らが教材を収集させ、ともに分析考察し、その対処法を論理的実践的に学ぶ。さらにその際、人権、権利、差別、多文化社会、日本国憲法、教育基本法などの専門的知識について検討する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：日本国憲法（第11条・第10章）を学ぶ。 第2回：日本国憲法（第12条・第13条）を学ぶ。 第3回：日本国憲法（第25条・第26条）を学ぶ。 第4回：教育基本法（前文・第1条・第2条・第4条）を学ぶ。 第5回：「人権教育の指導方法等の在り方について（第三次とりまとめ）」を読む。 （事例収集を行う。）</p> <p>第6回：事例研究（1）人権侵害事例の分析 「いじめ」事件をもとに 第7回：事例研究（2）人権侵害事例の分析 「いじめ」事件をもとに 第8回：事例研究（3）人権侵害事例の分析 「体罰」事件をもとに 第9回：事例研究（4）人権侵害事例の分析 「体罰」事件をもとに 第10回：事例研究（5）人権侵害事例の分析 「虐待」事件をもとに 第11回：事例研究（6）人権侵害事例の分析 「虐待」事件をもとに 第12回：事例研究（7）人権侵害事例の分析 「自殺」事件をもとに 第13回：事例研究（8）人権侵害事例の分析 「自殺」事件をもとに 第14回：事例研究（9）まとめ 第15回：事例研究（10）発表</p>			
<p>テキスト： 香川智弘「憲法講義」</p>			
<p>参考書・参考資料等：以下の文献などから適宜プリントにして配布する。</p> <p>曾和信一「人権教育としての同和教育と多文化教育」明石書店。坂田仰「法律・判例で考える生徒指導」学事出版。 北村年子「ホームレス襲撃事件と子どもたち」太郎次郎社。市川須美子「学校教育裁判と教育法」三省堂。</p>			
<p>学生に対する評価：授業への取り組みの態度とレポートをもとに総合的に評価する。</p>			

授業科目名： 幼児教育特論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数：2単位 区分：講義	担当教員名： 栗原 昭徳
科 目	教職に関する科目（教育の基礎理論に関する科目、教育課程及び指導法に関する科目）		
各科目に含めることが 必要な事項	<ul style="list-style-type: none"> ・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 ・保育内容の指導法 		
<p>授業の到達目標及びテーマ：</p> <p>幼児教育の基本的な知識及び理論、思想や歴史を、時代背景を考慮しながら関係的に理解し、幼稚園現場での実践的指導力の向上に資する。現代社会における幼児教育の実際と問題点を把握し、諸問題に対応しうる実践的指導の理論と力量を身につける。</p> <p>到達目標：幼稚園教育実践についての優れた教育観、指導観について深く分析できるとともに、それを自らの教育実践に応用することが出来る。また現実の教育課題（自立的生活習慣の欠如、家庭との連携、小学校との連携）に対応するための指導法について検討することができる。</p>			
<p>授業の概要：</p> <p>幼児教育の思想や我が国の幼稚園の歴史に関する基本的理論を展開し、時代の要請に応じた幼児教育のあるべき姿と方法技術を修得する。その上で、現代の幼児教育の実践に資する指導の理念と技術を、幼児教育の実践に即しながらの修得を目指す。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回： コメニウス、ペスタロッチー、フレーベルの幼児教育思想</p> <p>第2回： 明治草創期の幼稚園（学制の中の幼稚園、安栖里村龍心寺幼稚園）</p> <p>第3回： 東京女子師範学校附属幼稚園（開園と保育規則、保育の目的・方法）</p> <p>第4・5回： 倉橋惣三の幼児教育方法</p> <p>第6回： 幼稚園教育要領の歩み、第3の教育改革の中の幼稚園</p> <p>第7回： 「環境を通して」の教育方法と間接教育論の歩み</p> <p>第8回： 新幼稚園教育要領の教育内容と方法技術</p> <p>第9回： 乳幼児の発達と基本的生活習慣（家庭と幼稚園の連携）</p> <p>第10回： 自立の諸相（身体自立・身辺自立から精神的自立へ）</p> <p>第11回： 保育の構想と保育案の書き方</p> <p>第12・13回： 幼稚園年長児の冬の遊びと小学校の授業内容</p> <p>第14・15回： 卒園式から入学までの15日間（スタート・カリキュラムの前に）</p>			
<p>テキスト： 栗原『間接教育の構造—倉橋惣三の幼児教育方法』ぎょうせい、1994。</p> <p>栗原「スタート・カリキュラムの前に」日本生活科・総合的学習教育学会発表資料（全40頁）、2010。</p>			
<p>参考書・参考資料等： 栗原「明治、幼稚園草創期の幼児教育方法」中国四国教育学会研究紀要第41巻中、1996。</p>			
<p>学生に対する評価：</p> <p>受講後のミニレポート（毎回）30％。レポート30％。口頭試験40％。</p>			

授業科目名： 小学校授業実践特論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数：2単位 区分：講義	担当教員名： 栗原 昭徳
科 目	教職に関する科目（教育課程及び指導法に関する科目）		
各科目に含めることが 必要な事項	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程の意義及び編成の方法 ・各教科の指導法 ・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。） 		
授業の到達目標及びテーマ： 幼稚園から小学校へのスムーズな移行を可能とする幼小の連携とスタートカリキュラムの在り方を理解する。 小学校入門期の学級づくりおよび授業指導の実際と理論を習得し、実践的な授業指導力を身につける。 荒れる・騒がしい学級に対する「わかる授業」の指導技術と実践方法を修得する。 到達目標：小学校授業実践の優れた実践力、教材解釈や教育観について深く分析できるとともに、それを自らの教育実践に応用することが出来る。また現実の教育課題（学力低下、学習意欲の低迷、学習習慣の欠如など）に対応しながら自らの小学校授業実践力を向上させることができる。			
授業の概要： 幼稚園から小学校への連携と移行の理解から出発して、小学校入門期の学級指導及び授業指導の基本を理解する。 わかる授業を実現するために、学習規律の指導の理論と、学習内容及び学習方法の指導について修得する。 授業の成立しづらい学級に対して行なった授業ビデオの視聴により、わかる授業の指導技術の修得を図る。 授業分析や指導技術の習得においては、パソコンやDVD等の情報機器を活用する。			
授業計画 第1回：小学校入学時の教育経営の構想（スタート・カリキュラムの内容） 第2回：小学校入学時の教育経営の構想（スタート・カリキュラムの内容） 第3回：入学式直後から17日間の学級指導の計画と実際 第4回：自己紹介（誕生日）カードづくりと算数・生活科・学級会活動の合科的学習 第5回：学年始めの学級指導（登下校・遊び・朝の会・業間・給食・掃除・終わりの会の指導） 第6回：入門期の授業（学級づくりと学習規律の指導） 第7回：入門期の国語指導（話す聞くを中心に） 第8回：入門期の算数指導（授業から家庭学習へ） 第9回：わかる授業・できる授業の理論・構想と指導技術 第10回：わかる授業における「学習の内容・方法・規律」の指導 第11回：新学習指導要領の求める授業像と実践の構想 第12回：騒がしい学級の「学習規律」の指導 第13回：騒がしい学級の「学習内容・学習方法」の指導 第14回：「ごんぎつね」授業の構想と教材解釈・発問づくりの実際 第15回：「ごんぎつね」授業ビデオの視聴と意見発表、まとめ			
テキスト： 栗原『わかる授業をつくる先生』図書文化社、1997。 栗原『学習規律を育てる一崩壊授業の実態と指導の見通し』近代文芸社、2007。			
参考書・参考資料等： 栗原『入学式から研究授業までの17日間』全125頁、2007。 栗原『騒がしい学級の授業指導』ぎょうせい、1987。			
学生に対する評価： 受講後のミニレポート（毎回）30%。レポート30%。口頭試験40%。			

授業科目名： 小学校授業実践特論演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数：2単位 区分：演習	担当教員名： 栗原 昭徳
科 目	教職に関する科目（教育課程及び指導法に関する科目）		
各科目に含めることが 必要な事項	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程の意義及び編成の方法 ・各教科の指導法 ・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。） 		
<p>授業の到達目標及びテーマ：</p> <p>小学校教師の最も重要な職務である授業の実践的指導力をいっそう向上させるために、同じ栗原による「小学校授業実践特論」の発展として本演習を設定し、以下の内容を可能なかぎり小学校の実践現場での実際的な問題と提案授業の実践に対応させながら研究し、院生の研究テーマにも活かす。</p> <p>到達目標：小学校授業実践の教材づくり、発問づくり、指導案づくりにおける優れた指導力について深く分析できるとともに、それを自らの教育実践に応用することが出来る。また自らの授業技術を向上させたり、授業実践力を向上させたりすることができる。</p>			
<p>授業の概要：</p> <p>小学校の教科のうち、現場の教師が指導における困難を感じている国語の授業事例を中心に、授業不成立の原因や改善点を探る。つぎに、小学校現場での授業研究会に参加しながら、反省・協議の場にも加わり、栗原の授業改善の提案や講話の内容を検討する。さらに、院生とともに教材解釈・発問づくり・指導案づくりの実際にとりくみながら、授業改善のための提案授業をする。その授業をビデオに収録して、授業記録をつくる。</p> <p>授業の改善についての協議検討の成果を、発展的に自己の自主的な研究に活かしていく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：騒がしい学級、崩壊学級など、授業不成立の学級と授業の実態を知る。</p> <p>第2回：栗原指導の4年国語「ごんぎつね」の授業記録を読み、検討協議する。</p> <p>第3回：授業不成立の原因を考察する。</p> <p>第4回：授業不成立に対する指導について検討・協議する。</p> <p>第5回：小学校における校内授業研究会に参加し、実際の授業を参観する。（1）栗原とともに各クラスの授業を参観する。</p> <p>第6回：小学校における校内授業研究会に参加し、実際の授業を参観する。（2）提案授業を参観する。</p> <p>第7回：小学校教師による授業研究会に参加し、協議に加わる。</p> <p>第8回：現場教師とともに栗原による授業改善の提案や理論を聴講する。</p> <p>第9回：参観した授業の授業不成立の原因や指導の問題点・改善点を検討する。</p> <p>第10回：提案授業のための教材解釈・発問づくり・指導案づくり・教材づくりに参加する。</p> <p>第11回：院生とともに検討し作成した指導案によって、提案授業を実施し、ビデオで記録する。</p> <p>第12回：ビデオ、記録等を大学に持ちかえって授業記録を作成する。</p> <p>第13回：現場教師による授業と、授業改善を提案する栗原授業を比較検討する。</p> <p>第14回：院生による自主研究。</p> <p>第15回：院生による研究発表、協議・指導。</p>			
<p>テキスト：栗原『学習規律のゴールイメージ—優れた学級の学習規律に学ぶ』近代文芸社、2007。</p>			
<p>参考書・参考資料等：栗原「授業における学習規律とは何か」、大修館『体育科教育』2010.4、10 - 13頁。</p> <p>栗原、同上誌に「体育授業のための教授学」を連載。2010.10より第1回、全12回を予定。</p>			
<p>学生に対する評価：</p> <p>受講後のミニレポート（毎回）30%。レポート30%。口頭試験40%。</p>			

授業科目名： 指導技術特別演習		単位数：2単位	担当教員名： 田中 淳夫
科 目		区分：演習	
各科目に含めることが 必要な事項			
授業の到達目標及びテーマ： <p>確かな教育観・授業観を備えた教育実践力を形成する。模擬授業および小学校における実地体験を踏まえ、授業実践のための高度な指導技術を習得する。</p> <p>到達目標：教育実践における効果的な指導技術や教師の表現力について深く分析できるとともに、それを自らの教育実践に応用することができる。また自らの指導技術を向上させたり、授業実践力を向上させたりすることができる。</p>			
授業の概要： <p>授業と並行して、ボランティアで小学校に行き継続的に遅進児等の個別指導をする。授業において、学生の体験を適宜取り上げて、より良い指導の在り方について議論する。学生が自ら小学校に赴き、国語や算数などの授業をビデオなどで記録し、その資料を大学に持ち帰って、討議しながら分析する。子どもの認識の変容、気づき、発言などについて詳細な分析を加える。さらに国語や算数の教科書を使用して、教材研究しながら単元構想および指導案を作成する。それに基づいて小学校で一部授業をさせてもらったり、学内で模擬授業を行うなどして、実践的な取り組みを行う。それをビデオなどに記録して再度批判的に分析する。その際教師の表現力に注目することで、高度な指導技術を習得する。算数、国語のみならず学生が苦手とする科目について繰り返し実践する。以上のような過程を通して、子どもが探究する授業の在り方を習得する。さらに授業の基礎となる学級経営について教師の具体的な方策を習得する。</p>			
授業計画 第1回：教師の表現力、話し言葉の分析 ① 発問 第2回：教師の表現力、話し言葉の分析 ② 説話 第3回：授業記録の分析解釈 子どもの認識過程 ① 理解力の高い児童の認識過程を追う 第4回：授業記録の分析解釈 子どもの認識過程 ② 理解力の低い児童の認識過程を追う 第5回：授業記録の分析解釈 教師の登場・出方と児童 の認識 第6回：授業開発 単元構想 ① 国語 低学年	第7回：授業開発 単元構想 ② 算数 中学年 第8回：授業開発 単元構想 ③ 社会 高学年 第9回：模擬授業の検討、指導案作成 ①国語 低学年 第10回：模擬授業の検討、指導案作成 ②算数 中学年 第11回：模擬授業の検討、指導案作成 ③社会 高学年 第12回：ノート指導、評価方法 ① 独自学習とノート 第13回：ノート指導、評価方法 ② 振り返り学習とノート 第14回：学級経営 多動な子どもへの対応 第15回：学級経営 保護者への対応		
テキスト： 参考書・参考資料等： 学習指導要領、国語及び算数の教科書（複数社）、 手塚山学園授業研究所編『小学校 よい授業の条件』明治図書。 手塚山学園授業研究所監修『心に残る授業』明治図書。 小学校授業記録のビデオ、授業で使用したプリント類、子どもが記述したノート、などを適宜使用する。			
学生に対する評価： レポートによる評価			

授業科目名： 表現活動指導演習	教員の免許状取得の ための選択科目	単位数：2単位 区分：演習	担当教員名：河北 邦子
科 目	教職に関する科目（教育課程及び指導法に関する科目）		
各科目に含めることが 必要な事項	・保育内容の指導法		
<p>授業の到達目標及びテーマ 音楽を構成する要素としてのリズム・音程などの音楽的側面、及び言語的側面から歌唱教材を分析する力量を身につける。そして教材のもつ特徴を活かした保育活動、展開の在り方を考える力を身につける。保育のねらいを達成するため、構想した保育指導案を模擬授業として実践研究しながら、保育実践力を高める。</p> <p>到達目標：音楽教材を取り上げ、リズム、音程、言葉について深く分析できるとともに、それを自らの教育実践に応用することが出来る。また子どもの発達との関連で教材研究ができ、自らの教育実践力を向上させたりすることができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>音楽教材の楽曲を、リズム・拍子・形式等の音楽的側面、応答・繰り返し・脚韻等の言語的側面から分析し、楽曲のもつ特徴を把握する。また子どもの発達との関わりから、子どもが楽しむ要素について考える。楽曲を教材として、歌唱・器楽・身体表現活動へと展開する具体的な方法について研究する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：音楽表現活動における楽曲の位置づけ、 音楽的側面からの分析と指導の展開研究 <リズムについて (1) > 第2回：音楽的側面からの分析と指導の展開研究 <リズムについて (2) > 第3回：音楽的側面からの分析と指導の展開研究 <拍子・メロディ> 第4回：音楽的側面からの分析と指導の展開研究 <調性・形式等> 第5回：主に音楽的側面を保育展開の要素とした保育指導案を作成 第6回：模擬保育実践と課題の検討 (1) 第7回：言語的側面からの分析と指導の展開研究 <応答> 第8回：言語的側面からの分析と指導の展開研究 <繰り返し> 第9回：言語的側面からの分析と指導の展開研究 <擬声語・擬態語> 第10回：言語的側面からの分析と指導の展開研究 <頭韻・脚韻等> 第11回：主に言語的側面を保育展開の要素とした保育指導案を作成 第12回：模擬保育実践と課題の検討 (2) 第13回：自由にテーマを設定し、保育指導案を作成 第14回：模擬保育と課題を検証 (3) 第15回：授業の総括、レポート作成</p>			
<p>テキスト：授業の中で適宜資料を配付する。</p>			
<p>参考書・参考資料等：「幼児の創造的な表現を育むもの—4歳児における即興的・創造的活動事例の検討を通して—」 駒久美子・味府美香・木村充子・坪能由紀子、「幼児の歌唱表現の発達についての一考察—「犬のおまわりさん」の歌唱例を通して—」 河北邦子、『遊びの発達学』高橋たまき他編著 他</p>			
<p>学生に対する評価：</p> <p>授業中の取り組み（配点 70%） 実践レポートの成果（配点 30%）</p>			

授業科目名： 歌唱表現特別演習	教員の免許状取得のための 必修科目/選択科目	単位数：2単位 区分：演習	担当教員名： 坂本 久美子
科目	教科に関する科目		
各科目に含めることが 必要な事項	音楽		
<p>授業の到達目標及びテーマ：教育・保育現場における、音楽環境として大きな役割を担う指導者の歌唱表現の意義を実践的に学び、個人の歌唱力を高めるとともに豊かな歌唱表現力を養うことを目的とする。また、子どもの発達に応じた歌唱教材とその楽しみ方を研究する。</p> <p>到達目標：拍子やリズム、言葉など歌唱表現の構成要素について深く分析できるとともに、それを自らの教育実践に応用することが出来る。また自らの歌唱表現力を向上させたり、教育実践力を向上させたりすることができる。</p> <p>授業の概要： 歌唱力の基礎となる発声法を学び、豊かな歌唱表現へ発展させるための技法を学ぶ。また、さまざまな歌唱教材について、音楽構成・拍子・リズム・調性・曲調など音楽的な面や、詩の形態・言葉の面白さなど詩的な面など多面的な分析を行い、それぞれの歌の特徴を生かした歌唱表現につなげる。対象児や季節などに応じたミニコンサートを企画し、自ら歌うことを通して、歌唱力や表現力の向上と、幅広いレパートリーの形成を目指す。</p> <p>授業計画 第1回：発声の基礎・呼吸法 第2回：日本語の歌い方（論文講読・討議） 第3回：唱歌の歴史（文献研究・発表） 第4回：唱歌の分析と歌唱表現 第5回：唱歌のアンサンブル 第6回：「童謡運動」について（文献研究・発表） 第7回：童謡の分析と歌唱表現 第8回：現代の幼児歌曲と歌唱表現 第9回：日本歌曲の詩と音楽について（文献研究・発表） 第10回：日本歌曲の分析と歌唱表現 第11回：ミニコンサートの計画・立案 第12回：ミニコンサートの練習（部分） 第13回：ミニコンサートの練習（全体） 第14回：ミニコンサート（発表） 第15回：ミニコンサートの記録（DVD等）の分析と考察</p> <p>テキスト：適宜プリントを配布</p> <p>参考書・参考資料等： バーバラ・コナブル「アレクサンダーテクニックの学び方」（誠信書房） 藍川由美「日本の唱歌」（音楽之友社）、芥川也寸志「音楽の基礎」（岩波新書） 小島美子「日本童謡音楽史」（第一書房）、</p> <p>学生に対する評価： ミニコンサートでの歌唱（60%）、プログラムの構成（20%）、授業への取り組みの態度（20%）</p>			

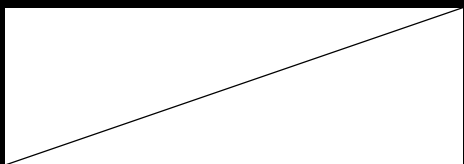
授業科目名： 鍵盤表現特別演習	教員の免許状取得のための 必修科目/選択科目	単位数：2単位 区分：演習	担当教員名：本廣 明美
科目	教科に関する科目		
	音楽		
<p>授業の到達目標及びテーマ：豊かなピアノ演奏能力と実践的鍵盤表現力を高めることを目的とする。音楽基礎構成要素の組み合わせの仕方においてイメージが異なることを認識させ、イメージ力と鍵盤表現力との関係性に重点を置き、学習者自身の実践的・主体的学習を促し、ピアノにおける自己表現力や創造性を養う。尚、これにより効果的な鍵盤表現のあり方について深く分析できるとともに、自らの鍵盤表現力を向上させ、教育実践力を向上させることに結びつくものである。</p>			
<p>授業の概要：鍵盤表現についての幅広い知識や奏法及び表現法を学ぶ。演奏法やピアノ曲を「イメージ」の形成の視点から分析し、自ら課題意識を持ち、自己研鑽への意欲や態度を身につけ、自己表現力を高めるものである。具体的には、ピアノ曲と演奏法について、「音高」「速さ」「強弱」「リズム」「奏法」などに視点を持ち、イメージの形成と表現の関係性を分析し考究する。そしてそれらを、対象である子どもの成長発達を踏まえ、興味・関心を持たせたいピアノ曲の演奏や表現に生かすことで、ピアノの技術と豊かな表現力の向上を目指す。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ピアノ表現の知識と奏法</p> <p>第2回：ピアノ曲の歴史（作曲家と作品 ロマン派以前）</p> <p>第3回：ピアノ曲の歴史（作曲家と作品 近・現代）</p> <p>第4回：さまざまな様式におけるピアノ表現</p> <p>第5回：さまざまな形式におけるピアノ表現</p> <p>第6回：ジャンル別におけるピアノ表現</p> <p>第7回：イメージの弁別法とイメージの形成の仕方</p> <p>第8回：イメージと鍵盤表現との関連</p> <p>第9回：ピアノ曲と鍵盤表現（動きを表わす曲）</p> <p>第10回：ピアノ曲と鍵盤表現（動物・乗り物等を表わす曲）</p> <p>第11回：ピアノ曲と鍵盤表現（感情を表わす曲）</p> <p>第12回：ピアノ曲と鍵盤表現（情景描写を表わす曲）</p> <p>第13回：ピアノ曲と鍵盤表現（四季を表わす曲）</p> <p>第14回：ピアノ演奏と曲のプレゼンテーションの練習</p> <p>第15回：ピアノ演奏発表と曲のプレゼンテーション</p>			
<p>テキスト：保育の現場で聴かせたい ピアノ名曲でこどもと遊ぼう（ドレミ楽譜出版社）、適宜プリントを配布</p>			
<p>参考書・参考資料等：「音楽による自己発見 心で弾くピアノ」（音楽之友社）、「音楽教育の研究」（音楽之友社）、様式とテクニックが同時に学べるピアノのための名曲集（全音楽譜出版社）</p>			
<p>学生に対する評価： ピアノ演奏（50%）曲のプレゼンテーション（30%） 授業への取り組みの態度（20%）</p>			

授業科目名： 造形表現特別演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：井本 勝美
科 目	教科に関する科目		
施行規則に定める科目区分	図画工作		
<p>授業の到達目標及びテーマ：</p> <p>県内の伝統工芸品および子どもの造形作品をもとに、色彩、形、構成等、造形を構成する要素の分析を行うとともに、より地域性や子どもの実態に即したオリジナルな作品の制作を目指す。学生自らが設定した自己課題に基づく実態調査を始め、資料の収集、情報の整理、題材の考案・試作等を通して新たな作品制作を行う。造形表現に欠かせない要素である色彩・形・構成の重要性に常に立ち返り、造形教育に携わる小学校教員に必要な能力を身につける。</p> <p>授業のテーマは、「山口県の地域性や子どもの実態を生かしたオリジナル作品の制作」とする。</p> <p>到達目標：色彩や形、構成などの芸術表現・造形表現について深く分析できるとともに、それを自らの教育実践に応用することが出来る。また自らの芸術表現力と教材開発力を向上させることが出来る。</p>			
<p>授業の概要：山口県の地域性や子どもの実態を生かしたオリジナル作品の制作を目的とした自己課題を設定して、テーマに基づく実態調査や資料研究を始め、題材の考案・試作や授業展開案の作成等を主体的に行い、新たなオリジナル作品を数題制作して、その取り組み内容と成果をまとめて研究発表を行う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回： 授業説明、自己課題の設定</p> <p>第2回： 自己課題に基づく研究計画立案</p> <p>第3回： 実態調査1（県内の伝統工芸品・民芸品等の調査）「柳井の金魚提灯」</p> <p>第4回： 実態調査1（県内の伝統工芸品・民芸品等の調査）「山口の大内人形」</p> <p>第5回： 実態調査1（県内の伝統工芸品・民芸品等の調査）「下関のフグ笛」</p> <p>第6回： 実態調査1のまとめ・分析</p> <p>第7回： 実態調査2（子どもの造形作品・題材の調査）</p> <p>第8回： 実態調査2のまとめ・分析</p> <p>第9回： 造形作品の研究1 題材の考案</p> <p>第10回： 造形作品の研究2 題材の考案・検討</p> <p>第11回： 造形作品の研究3 題材の試作</p> <p>第12回： 造形作品の研究4 題材の試作・修正</p> <p>第13回： 研究結果のまとめ1 作品の仕上げ</p> <p>第14回： 研究結果のまとめ2 研究発表内容のまとめ</p> <p>第15回： 研究発表と評価</p>			
<p>テキスト： 自作資料と収集資料、伝統工芸品（柳井の金魚提灯、大内人形等）、子どもの造形作品</p>			
<p>参考書・参考資料等： 適宜紹介</p> <p>「色・イメージ・構成」寺門保夫・田口敦子・阿部隆夫（技法シリーズ別冊アトリエ）</p>			
<p>学生に対する評価： 調査・研究内容（50%）、作品の試作品（30%）、研究態度（20%）</p>			

授業科目名： わらべうたの研究	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数：2単位 区分：演習	担当教員名：河北 邦子
科 目	教科に関する科目		
施行規則に定める科目区分	音楽		
<p>授業の到達目標及びテーマ：伝承・伝播された「わらべうた」を題材とし、音楽的側面と言語的側面から比較・分析することにより、時代性や地域性があることを知る。言葉やアクセントなど表現の違いがわらべうたにどのように反映しているか、また地域や時代によって遊びがどのように変化しているかを知る。わらべうたが子どもの生活の中で必然性があって口承されたこと、及びわらべうた遊びと子どもの発達との関係を考えながら、教育現場で子どもがわらべうた遊びをすることの意義について考える。わらべうたを採取し楽譜化する。わらべうた題材を知る。</p> <p>到達目標：芸術表現（わらべうた）のリズム、言葉、遊び、文化について深く分析できるとともに、それを自らの教育実践に応用することが出来る。またそのための自らの遊びの感性や表現方法を向上させることが出来る。</p>			
<p>授業の概要：わらべうたについて、講義・文献研究、及び演習を通して学ぶ。地域によってわらべうたの旋律やリズム、言葉や遊びに差異があることに気づき、その違いを分析し、違いが何によって生じ、その要因である地域の話し言葉や子どもの身近な環境との関連について考える。子どもの生活とわらべうた遊び、また子どもの発達との関連について、より多くのわらべうたを知りながら、保育・教育的意義の側面からわらべうたあそびを捉える。わらべうたの伝承者から直接聞き取り、楽譜化しながら、記録の意義や伝承していくことの意義を考える。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション わらべうたの伝承（1）提示した山口県と他県の伝承事例を比較研究</p> <p>第2回：わらべうたの伝承（2）事例を自由選択し伝承について比較研究 わらべうた遊び（あそばせうた）</p> <p>第3回：わらべうたの伝播（1）提示した山口県と他県の伝播事例を比較研究 わらべうた遊び（身体あそびうた）</p> <p>第4回：わらべうたの伝播（2）事例を自由選択し伝播について比較研究 わらべうた遊び（手・指遊び）</p> <p>第5回：わらべうたの地域性についてレポート発表 わらべうた遊び（言葉あそび歌）</p> <p>第6回：わらべうたを記録する意義と具体的な方法 わらべうた遊び（遊具を用いるわらべうた）</p> <p>第7回：わらべうたの採集・採譜の方法</p> <p>第8回：わらべうたの採集</p> <p>第9回：わらべうたの採譜</p> <p>第10回：採集・採譜したわらべうたの発表</p> <p>第11回：わらべうたあそびと子どもの発達（感覚器官・運動能力・手行為） わらべうた遊び（輪遊びうた）</p> <p>第12回：わらべうたあそびと子どもの発達（言語能力・音楽能力・社会性） わらべうた遊び（鬼遊びうた）</p> <p>第13回：わらべうたの教育的意義について討議（あそばせうた） わらべうた遊び（自然・天気天象のうた）</p> <p>第14回：わらべうたの教育的意義について討議（あそびうた）</p> <p>第15回：わらべうたについてのまとめ</p>			
テキスト：適宜プリント配布			
<p>参考書・参考資料等：『日本伝統音楽の研究』『日本伝統音楽の研究2』小泉文夫『わらべうた 音楽の理論と実践—就学漸の音楽教育—』フォライ・カタリン著、知念編、畑玲子訳、『近世童謡童遊集』尾原昭夫、『わらべうたであそぼう』（年少・年中・年長編）（コダーイ芸術教育研究著）、『山口のわらべうた』内田伸・河北邦子著 日本のわらべうた全集1～27巻 浅野建二 平井康三郎 後藤捷一 監修 他</p>			
<p>学生に対する評価：レポートを評価する（配点：70%）。授業への取り組みの態度（配点：30%）</p>			

授業科目名： 郷土の美術研究	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数：2 単位 区分：演習	担当教員名： 武田 雅行
科 目	教科に関する科目		
施行規則に定める科目区分	図画工作		
<p>授業の到達目標及びテーマ：児童の鑑賞活動の充実及び地域文化に根差した美術教育をいっそう豊かなものとするために、学生自らが問題意識を持ちながら、主体的に学外の文化施設に足を運び、将来、地域に育つ子供たちに深く関わっていく者として、代表的な郷土ゆかりの美術作家の表現方法や技法について理解を深める。作品の色彩、形、構成などの要素について分析するとともに、優れた作品を生み出す作家の生き様を通して感性を育むことの大切さに気付く。また自らの表現力、表現技法をより高めながら、教育実践への応用について考察する。</p> <p>到達目標：色彩や形などの芸術表現・芸術技法について深く分析できるとともに、それを自らの教育実践に応用することが出来る。またそのための自らの感性や表現技法を向上させることが出来る。</p>			
<p>授業の概要：調査・研究に当たっては、事前学習の後、地域の美術館や博物館に収蔵されている各ジャンルの優れた美術作品を鑑賞する機会を通じて、各種資料や情報の収集を行い、その考察の成果を含めて研究ファイルとしてまとめる。また、造形表現に欠かせない要素である色彩・形・構成の重要性に常に立ち返り、美術分野における地域文化の専門的知識を身につけた上で、子どもと心を通わせる美術的側面からの「おもちゃ作り」や「絵手紙作成」の演習等も行い、美術と子どもとの関わりや、造形表現が地域や家庭、教育現場でどのように活かせるかを考察する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：導入（山口県の美術について）・授業計画提示</p> <p>第2回：山口県の日本画について（文献などによる流派・作風・時代背景などの事前学習）</p> <p>第3回：毛利博物館見学</p> <p>第4回：雪舟および雲谷派の作家について</p> <p>第5回：研究ファイル作成（資料の収集と考察）</p> <p>第6回：山口県の洋画・彫刻について（文献などによる作風・地域性・代表作・生き様の事前学習）</p> <p>第7回：山口県立美術館見学</p> <p>第8回：香月美術館見学</p> <p>第9回：研究ファイル作成（資料の収集と考察）</p> <p>第10回：山口県ゆかりの作家について（文献などによる萩焼・漆工芸・鍍金・鍛金などの工芸分野の事前学習）</p> <p>第11回：萩浦上記念館見学</p> <p>第12回：工作①（身近な廃材を使用しておもちゃ制作）</p> <p>第13回：工作②（前回の続き）</p> <p>第14回：絵手紙制作</p> <p>第15回：研究ファイル作成（資料の収集と考察）まとめ</p>			
<p>テキスト：授業の中で適宜資料を配布する</p>			
<p>参考書・参考資料等：「山口県の美術」編集：榎本徹 監修：河野良輔（思文閣出版）</p> <p>郷土史「防長の美術と文化」全2巻(学研)「香月泰男展図録」編集：山口県立美術館（艸藝社）</p> <p>「デザインの色彩」田中満雄・北島耀・細野尚志（日本色彩研究所）他 適宜紹介する</p>			
<p>学生に対する評価:提出 研究ファイル及び作品提出(50%)。試験による評価(30%)。授業への取り組みの態度(20%)。</p>			

授業科目名： 教育特別研究Ⅰ		単位数：2単位	担当教員名：岸光城、田代直人、堂野佐俊、栞原昭徳、河北邦子、川野哲也
科 目		区分：演習	
各科目に含めることが 必要な事項			
授業の到達目標及びテーマ： 学生の研究課題に即して、初歩的段階における研究指導を行う。			
授業の概要： 学生は自らの問題意識を明らかにし、文章化したり発表したりする中で、各自の研究テーマを明確にする。その上で学問領域における最新の研究動向を調査し整理する。また学問領域における研究アプローチについても吟味し、各自が依拠する研究アプローチを自覚する。指導においては修了後のキャリア形成を見据えて情報提供や相談を行う。			
授業計画 第1～3回：学問領域の性格と課題 第4～8回：最新の研究動向についての概観 第9～14回：問題意識の明確化および先行研究のレビュー 第15回：研究構想のまとめ 岸光城：教育方法学研究における研究方針の指導を行う。 田代直人：生涯学習論研究における研究方針の指導を行う。 堂野佐俊：発達心理学研究における研究方針の指導を行う。 栞原昭徳：授業研究における研究方針の指導を行う。 河北邦子：音楽教育における研究方針の指導を行う。 川野哲也：教育思想における研究方針の指導を行う。			
テキスト： なし			
参考書・参考資料等： 講義中に適宜紹介する。			
学生に対する評価： 毎時のプレゼンテーションおよびレポートで評価する。			

授業科目名： 教育特別研究Ⅱ		単位数：2単位	担当教員名：岸光城、田代直人、堂野佐俊、栞原昭徳、河北邦子、川野哲也
科目 各科目に含めることが 必要な事項		区分：演習	
授業の到達目標及びテーマ： 学生の研究課題に即して、調査段階・資料収集における研究指導を行う。			
授業の概要： 学生の研究課題に即して指導を行う。研究アプローチに依拠しつつ文献資料の収集、精読、実態調査等を行う。自己の解釈に基づいて先行研究を評価・解釈するとともに、問題意識を深化発展させる。研究テーマによっては実態調査や質問紙調査の研究方法についても学ぶ。学術研究大会に参加するなどして研究活動の条件や研究の発展性についても学ぶ。指導においては修了後のキャリア形成を見据えて情報提供や相談を行う。			
授業計画 第1回：研究アプローチの確認 第2～14回：文献資料の収集および精読 または実態調査 第15回：調査結果のまとめ、資料整理 岸光城：教育方法学研究における調査研究の指導を行う。 田代直人：生涯学習論研究における調査研究の指導を行う。 堂野佐俊：発達心理学研究における調査研究の指導を行う。 栞原昭徳：授業研究における調査研究の指導を行う。 河北邦子：音楽教育における調査研究の指導を行う。 川野哲也：教育思想における調査研究の指導を行う。			
テキスト： なし			
参考書・参考資料等： 講義中に適宜紹介する。			
学生に対する評価： 毎時のプレゼンテーションおよびレポートで評価する。			

授業科目名： 教育特別研究Ⅲ		単位数：2単位	担当教員名：岸光城、田代直人、堂野佐俊、栞原昭徳、河北邦子、川野哲也
科目 各科目に含めることが 必要な事項		区分：演習	
授業の到達目標及びテーマ： 学生の研究課題に即して、発展的段階における研究指導を行う。			
授業の概要： 学生の研究課題に即して指導を行う。収集した文献資料やデータについての整理および各自の研究目的に即した形での解釈や吟味を行う。必要に応じて補足的に調査を行ったり、資料を収集したりするなどして研究を深める。問題意識、研究目的、研究方法、研究成果などの一貫性および妥当性についても吟味する。			
授業計画 第1～2回：文献資料および調査結果の確認および整理 第3～7回：資料収集または発展的調査、および解釈吟味 第8～10回：研究論文の執筆および解釈をめぐる議論 第11～14回：補足的調査および文献資料の収集 第15回：研究論文の全体像を吟味。 岸光城：教育方法学研究における資料分析の指導を行う。 田代直人：生涯学習論研究における資料分析の指導を行う。 堂野佐俊：発達心理学研究における資料分析の指導を行う。 栞原昭徳：授業研究における資料分析の指導を行う。 河北邦子：音楽教育における資料分析の指導を行う。 川野哲也：教育思想における資料分析の指導を行う。			
テキスト： なし			
参考書・参考資料等： 講義中に適宜紹介する。			
学生に対する評価： 毎時のプレゼンテーションおよびレポートで評価する。			

授業科目名： 教育特別研究IV		単位数：2単位	担当教員名：岸光城、田代直人、堂野佐俊、栞原昭徳、河北邦子、川野哲也
科 目		区分：演習	
各科目に含めることが 必要な事項			
授業の到達目標及びテーマ： 学生の研究課題に即して、完成的段階における研究指導を行う。			
授業の概要： 学生の研究課題に即して指導を行う。学生の調査および研究の成果を発表したり、他の学生や研究者と議論したりすることによって自己の研究成果を相対化する。また研究成果として弱い部分について補強するとともに、各自の研究成果が教育実践にいかにより有益であるかを解説し吟味する。研究の完成に向けた指導を行う。			
授業計画 第1～12回：論文作成における指導 第13回：研究発表会の準備 第14回：研究発表会 第15回：ディスカッションおよび反省 岸光城：教育方法学研究における研究総括の指導を行う。 田代直人：生涯学習論研究における研究総括の指導を行う。 堂野佐俊：発達心理学研究における研究総括の指導を行う。 栞原昭徳：授業研究における研究総括の指導を行う。 河北邦子：音楽教育における研究総括の指導を行う。 川野哲也：教育思想における研究総括の指導を行う。			
テキスト： なし			
参考書・参考資料等： 講義中に適宜紹介する。			
学生に対する評価： 毎時のプレゼンテーションおよびレポートで評価する。			